

神奈川県秦野市で開催された「名水サミットinはだの」に参加しました。



令和7年11月8日及び9日に神奈川県秦野市にて開催された名水サミットに参加しました。

1日目のシンポジウムでは、名水である「秦野盆地湧水群」の紹介とともに、高度経済成長期に水需要が急激に増大したため地下水位の低下を招いてしまったことや工場等が使用した化学物質によって地下水が汚染されてしまった危機を、市民・事業所・行政が一体となって地下水のかん養や汚染対策に取り組

み、「秦野名水」を復活させた歴史について詳しく説明していただき、地域が一体となって湧水を守っていく姿勢の重要性を改めて実感しました。

2日目の名水見学ツアーでは、まほろばの泉や弘法の清水、今泉名水桜公園、葛葉の泉など秦野盆地の地下水を水源とする「秦野名水」のスポットを紹介していただき、今なお市民の生活に密着した利活用が図られている名水の存在感、名水に対する郷土愛を感じました。

令和8年度名水サミットは、9月25日から26日にかけて山形県西川町で開催される予定です。次回も多くの皆様のご参加をお待ちしています。

※名水サミットは、名水百選として環境省が認定した名水のある市町村で構成される「全国水環境保全全国市町村協議会」の全国大会として行われるものです。



柿田川湧水保全の会とは

柿田川湧水保全の会 会長 石垣雅雄

日頃より、柿田川湧水保全の会の活動に深いご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

柿田川は、名水百選に選定されてから40年を超え、地域の暮らしや産業を支える貴重な水源として守り継がれてきました。この長い年月は、国や町、地域住民など、多くの方々が柿田川の価値を認識し、保全に力を尽くしてこられた積み重ねの証でもあります。しかし、私たちが日常当たり前に使っている水を取り巻く状況は、自然災害や気候変動、地下水環境の変化などにより、決して安定したものではありません。

本会では、清掃活動や外来植物の駆除、富士山植樹、関係機関との連携を通じ、「保全」と「活用」の調和を大切にしながら、次世代に誇れる柿田川を引き継ぐ取り組みを続けていきます。

今後も、これまでの40年の歩みを胸に刻み、地域の皆様と共に水の恵みに感謝し、「親しまれ、守られる柿田川」を未来へ繋いでまいります。引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。

柿田川湧水保全の会 新役員を紹介します

令和7年6月12日の総会にて、下記のとおり新役員が選任されました。

—令和7・8年度役員人事— (太字が新たに就任した役員)

会 長	石垣 雅雄(新宿)	理 事	岩崎 良一(徳倉)
副 会 長	秋元 稔(畑中)		野田 潔(的場)
	野田 敏彦(的場)		古澤 太郎(戸田)
会 計	平井 洋重(湯川)	進 藤 進 (長沢)	
事務局長	高嶋 広幸(八幡)	顧 問	庄 司 勝彦 (長沢)



石垣会長

柿田川清掃活動

湧水保全の会では、例年、柿田川周辺の清掃活動を行っています。
令和7年度においても、7月19日と令和8年3月14日の2回実施し、それぞれ200人を超える大勢の方々のご参加があり、町民の関心の高さが伺えました。中高生にも清掃への協力を呼びかけておりますが、回を重ねる毎に参加者が増加しており、大変頼もしく思っています。



作業は、特定外来生物「ノハカタカラクサ」の駆除を中心に柿田川公園内で行われました。ノハカタカラクサは、大変繁殖力が強く小さな株や根などから再生してしまうため、今後も夏と春の年2回、引き続き根気強く駆除作業を行っていく予定です。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

富士山植樹

当会は、柿田川の水源涵養のための森づくりを行う「柿田川・東富士の地下水を守る連絡会」の参画団体として、例年4月29日に実施する富士山植樹に参加しています。

令和7年度の植樹内容・これまでの植樹実績

本数	283本 (大苗94本、小苗189本)
樹種	14種 (イロハモミジ等)
実績	25,446本 (広葉樹17,046本、針葉樹8,400本)

柿田川自然再生検討会

国土交通省が主催し、地域や自治体、行政、関係する機関が一体となり、協働して柿田川の自然環境を保全・再生できるように「柿田川自然再生計画」を作成しています。

毎年、検討・評価を行い、柿田川の自然環境保護活動に努めています。

湧水保全の会では会員を募集しています！

柿田川を守っていくために、私たちと一緒に活動しませんか？ (年会費1,000円)

問い合わせ 清水町役場 都市計画課 公園みどり係

TEL 055-981-8224 (直通)